

ベラルーシ公開情報とりまとめ

(7月1日～7月7日)

2024年7月18日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- EUによる対ベラルーシ制裁の強化に対するグラス外務省報道官の声明(7月1日)
- 若干名の政治犯の釈放(7月2日)
- ナチスドイツからのベラルーシ解放 80 周年記念軍事パレード(7月3日)
- ルカシェンコ大統領の上海協力機構加盟国首脳会合出席。ベラルーシの正式加盟。(7月4日、於:アスタナ)
- 7月8日から19日にかけて、ベラルーシ・中国両国軍はブレスト演習場にて合同対テロ訓練を実施(7月6日)

【ルカシェンコ大統領動静】

●ベラルーシ独立記念日に寄せた記念集会における演説

・ベラルーシ人民の意志により、ソ連の赤旗の様式がベラルーシの国旗に残り、7月3日がベラルーシ独立記念日となった。

・ベラルーシの地を幾多の戦争や惨禍が通り過ぎていったが、その中でベラルーシ人民は自らの民族としての自己認識を育み、鍛え上げ、形成するとともに、東スラヴの一致や多民族から成るソヴィエトの一致が形成されてきた。

・欧州全体がソ連に敵対して戦った。今日、その子孫は自らの祖先の罪を悔やんで許しを請う代わりに、我々を制裁によって締め付け、我々を武器によって脅しつけている。今日、集团的西側諸国を実際に結びつけているものは、他者を食いものにして自分だけは金持ちになろうとする強欲であり、我々勝者に対する遺伝子レベルでの憎悪。

・我々は 30 年以上にわたり、制裁や政治的な陰謀、恫喝、情報による煽動を乗り越え、最も陰鬱な予測や見通しにもかかわらず、ベラルーシを建設してきている。我々は平和に暮らしており、あらゆる分野における成功を手に入れている。

・ベラルーシはいかなる戦闘行動にも巻き込まれるつもりはない。ウクライナとの国境でのいかなる衝突も起こさせない。

・ベラルーシ経由で欧州に流入する移民を捕まえたりはしない。国家国境委員会その他の軍関係者や一般国民に、ベラルーシ・ポーランド国境において欧州連

合(EU)を守るようにと命令するつもりなどない。

・2020 年に国を壊した者のうち、がん患者等の重篤な状態にある者が数日後に自由の身になるとしても、驚くにはあたらない。我々は誰に対しても人間的に接し、対応している。災難に陥った人に国籍の別はなく、我々はそのような人々を助けなければならない。

(7月2日 大統領府)

●ナチスドイツからのベラルーシ解放 80 周年記念軍事パレードにおけるルカシェンコ大統領の演説

・かつてはナチスドイツが、現在は欧米が我々を「教育」しようと試みている。

・我々はベラルーシに対する煽動一つ一つの背後にいる者を知っている。平和のために、我々は軍を強化し、発展させており、国家の軍事機構全体を改善している。本日のパレードは、そうした煽動が全面的な武力紛争にならないようにあらゆることを行っている軍・治安機関の将兵のプロ意識や職務への忠実さに対する感謝。

・本日のパレードは、ベラルーシとロシアの同盟の力、集団安全保障条約機構(CSTO)加盟国の力、中国との軍事分野における協力の力の印であり、歴史的な記憶・価値観・自らの主権を守るために我々が現在も一体となる用意があるという印。

・ベラルーシにとって初となる戦術核戦力にかかる訓練は、ロシアとの同盟の防衛能力の水準がかつてなく高いということを示すものとなった。

(7月3日 大統領府)

●上海協力機構加盟国首脳会合への出席

(1)上海協力機構(SCO)加盟国首脳会合では、冒頭でベラルーシの SCO 正式加盟が採択された。その後の首脳会合の席上、ルカシェンコ大統領は特に以下を発言。

- ・西側主導ではない世界的な国際安全保障の構築
- ・SCO 加盟国間での経済分野での協力推進
- ・制裁等の人為的な障壁による食料安全保障に対する挑戦
- ・SCO の国際的な権威の向上
- ・SCO 加盟国での文化交流

(2)SCO プラス会議において、ルカシェンコ大統領は特に以下を発言。

- ・ユーラシアにおける安全保障に関する憲章採択の提案
- ・ユーラシアにおける様々な統合プロセスや「一帯一路」等のインフラ関連プロジェクト全ての接合
- ・脱ドル化に向けた財政面での連携
- ・デジタル技術分野や人工知能開発における協力強化
- ・SCO 諸国全体での取り組みに対するベラルーシの農工業・商業・学術・文化・教育等の分野を通じた貢献

(3)ルカシェンコ大統領は、シャリフ・パキスタン首相、グテーレス国連事務総長、習近平・中国国家主席、エルドアン・トルコ大統領とも別途会談。特に習近平・国家主席との会談では、中国によるウクライナにおける和平イニシアチブを含む中国のイニシアチブ全てへの支持を改めて表明。

(7月4日 大統領府)

●夏至祭「クパーリエ」におけるルカシェンコ大統領の演説と同大統領の体調不良に関する報道

・ルカシェンコ大統領は、7月6日にモギリョフ州アレクサンドリアで開催された夏至祭「クパーリエ」にて、7月は同大統領にとって最も忙しい月の一つだと認めた。同大統領は、「非常に多くの大規模行事が開催される。そして、最も困難なのは、多くの人々が自分を見て、皆が自分に何かを探し求めているときである。大衆は個人に影響を与える。特に、パレードやら式典やらは。

そして、ここから 4,000km も離れたアスタナに関することで、さらに負担が増した(7月4日にアスタナで開催された SCO 首脳会談のこと)。非常に大変な日々であった。」と述べた。

・7月5日、ロシアのテレビ局「ドシチ」は、アスタナで開催された上海協力機構(SCO)首脳会合中にルカシェンコが体調を崩した旨報じた。

・同局によると、ルカシェンコの体調悪化は、7月3日、アスタナに到着してから1時間半から2時間後に起こった。

・同局は、「ルカシェンコの体調は首脳会合参加者の目の前で急激に悪化し始めた。翌日4日、ルカシェンコは首脳会合で演説し、各国首脳と会談したが、2日前や前日、軍服姿でミンスクの軍事パレードに出席したときよりも体調が悪化しているのがわかる。顔は青白くざらついており、演説も自信に満ちていない」と報じた。

(7月6日 大統領府、7日「ゼルカロ」、「ポジルク」)

【外交】

●EU による対ベラルーシ制裁の強化に対するグラス外務省報道官の声明

・EU によるこれら複数の制裁パッケージは全て、その破壊的目標を達成することが全くもって絶望的であるという点で共通している。

・今週、我々は上海協力機構(SCO)の正式な加盟国となる予定であり、多くの実務訪問を行い、互恵的な協力関係の発展を望む国々と重要な協力プログラムを開始する予定である。

・EU の議長国交代に間に合わせるために急いで採択された決定が、実際には我々を強化し、主要なパートナーとの交流を深めるものである一方で、欧州の人々に不安をもたらし、結局はEU自身を弱体化させていることは明らかだ。

・もちろん、ベラルーシ政府は既に一連の非対称的な対応策を用意している。それらは、ベラルーシにおける非友好的な国々からの輸入や団体の活動条件を厳しくすることに関するものである。

・しかし我々は、依然として、相互の主張を退けるためには、制限をかけ合うのではなく、対話を行うほうがよ

り効果的であると確信している。ベラルーシは、どのような形式であれ、また最も繊細な問題であれ、対話に参加する用意が整っている。

(7月1日 外務省)

●国連人権理事会は、ベラルーシの人権状況の悪化を憂慮

・第56回国連人権理事会では、ベラルーシ情勢に関する報告書に関する協議が行われ、ランズベルグス・リトアニア外相は、ベラルーシの状況は悪化しており、人道に対する罪と認定できる弾圧も前例のないレベルに達している旨発言。ベラルーシ当局に対する圧力を強め、人権に関する義務を遵守させるべきと訴えた。

(7月3日 国連人権理事会)

●SCO 首脳会合の際に行われた、ルカシェンコ大統領とグテーレス国連事務総長との会談

(1) ルイジエンコフ外相は、ルカシェンコ大統領とグテーレス国連事務総長の会談につき、「全国テレビ(ONT)」にて、以下のとおり発言した。

・グテーレス国連事務総長は会談の大半を、人権ではなく、ベラルーシにおける国連活動に焦点を当てた。

・我々は持続可能な開発目標について多くを協議した。同事務総長は、ベラルーシでの持続可能な開発目標の実施のしかたが気に入っていると述べた。全ての方面で、要求することは一つもないと。

(2) 国連による発表

・グテーレス国連事務総長は、ルカシェンコ・ベラルーシ大統領の要請を受け、同大統領と会談した。同事務総長は、国連憲章、国際法、国家の領土保全の尊重に基づき、ウクライナにおける戦争を終結させることの重要性を強調した。

・グテーレス事務総長はベラルーシの人権状況に憂慮を表明した。同事務総長は、前日3日の恩赦がベラルーシの人権と基本的自由の完全な尊重に向けた一歩であってほしいとの願いを伝えた。

(7月4日 「ゼルカロ」、国連)

●元駐独ベラルーシ大使の死去に関する欧州安全保障協力機構(OSCE)米国政府代表部臨時代理大

使の声明

・6月23日、シドレンコ元駐独ベラルーシ大使が48歳で死去。

・7月5日、ブラッカー欧州安全保障協力機構(OSCE)米国政府代表部臨時代理大使は、かつてOSCEでも働いたシドレンコ氏の死を悼むとともに、シドレンコ氏がベラルーシ国家保安委員会(KGB)による激しい尋問の末に自殺した可能性に特に言及。

・シドレンコ氏の死去を巡っては、埋葬日になって独立系メディアがまず報じ、その後やっとベラルーシ外務省も同氏の死去を確認。死因は自殺・他殺を含め諸説あり。

(7月5日 OSCE 米国政府代表部、8日 ポジルク、「ゼルカロ」)

【内政】

●若干名の政治犯の釈放

・7月2日、ルカシェンコ大統領は、がん患者等の重篤な状態にある若干名の政治犯の釈放の可能性に言及。7月3日には恩赦に関する法律に署名。この恩赦では政治犯は対象となっていない。同日、若干名の政治犯の釈放が始まった。

・7月4日、欧州対外活動庁(EEAS)、在ベラルーシ米国大使館、ブラジェ・ラトビア外相は、若干名の政治犯の釈放に特に言及した上で、政治犯全員の釈放を求めることを改めて強調。同日、グテーレス国連事務総長もルカシェンコ大統領との会談時に、恩赦をベラルーシにおける人権と基本的な自由の完全な尊重への一歩とするよう発言。

・7月5日、政治犯やその近親者を支援する団体「BYSOL」のストリジャク共同創設者は、釈放された者の大部分は重病を患う高齢者ではなく、重体の者や高齢の者が釈放されているという情報は実態に即していないと指摘。

・7月8日、人権団体「ヴァスナ(春)」は、少なくとも18人の政治犯の釈放が確認できていること、また、釈放の条件がルカシェンコ大統領に宛てて許しを請う書簡を書くことだったため、一部の政治犯は7月3日の釈放を拒否したこと等発表。

・同日、トウル国営「全国テレビ(ONT)」司会者は、ル

カシェンコ大統領の支持者の全員が全員、この決定を全面的に理解しているわけではないとした上で、ルカシェンコ大統領が一部の政治犯を釈放したのは、大統領がそうした人々を哀れに思うようになったからである旨発言。

(7月2日 大統領府、「ゼルカロ」、3日「ポジルク」、「ゼルカロ」、8日「ゼルカロ」、国営「全国テレビ(ONT)」)

●7月5日現在の政治犯の数は1,423人

(7月5日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

【軍事・安全保障】

●ベラルーシ・ウズベキスタン国防相会談

・フレニン国防相は、ミンスクを訪問中のクルバエフ・ウズベキスタン国防相と会談。

・双方は、二国間の軍事協力の現状と相互の関心分野における協力強化の方法につき協議。

(7月1日 国防省)

●ナチスドイツによるベラルーシ解放から80周年を記念する軍事パレード

・将兵約5,000人、車両300両以上、航空機40機以上が参加。ベラルーシ軍以外にロシアをはじめとする独立国家共同体(CIS)の複数の国や中国からも部隊が参加。

・地対地ミサイルシステム「イスカンデル M」が核兵器運搬手段として、またイラン製無人航空機(UAV)「シャヘド」と外観が酷似する UAV「ゲラニ 2」もそれぞれ走行展示が行われた。

(7月3日 国営ベルタ通信、Reform.news)

●リトアニア税関は、7月10日までにベラルーシで登録されたトレーラー及びセミトレーラーのEU領内からの撤去を要求

・7月1日に施行された新たな対ベラルーシ制裁によるもの。

(7月5日「ゼルカロ」)

●7月8日から19日にかけて、ベラルーシ・中国両国

軍はプレスト演習場にて合同対テロ訓練を実施

(7月6日 国防省)

●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(7月1日～7月7日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも12人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも286人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも183人を阻止。

(7月2日～7月8日「ポジルク」)

【抗議勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の動向

・7月2日の若干名の政治犯の釈放を受けて、全ての政治犯の釈放の重要性を強調。

・7月3日のベラルーシ独立記念日に寄せ、「この祝日は自由と尊厳を連想させるものであるべきだが、現政権は第二次世界大戦の悲劇を皮肉な見世物に歪曲し、ベラルーシの人々の苦しみを軽んじている」とコメント。

・7月4日、ラトビアを訪問し、ブラジェ・ラトビア外相と政治犯の釈放の問題につき会談。

(7月8日 チハノフスカヤ氏公式サイト)

(了)